

# 中小企業景況調査報告書 (福井県商工会地域)

令和8年1月～3月実績

令和8年4月～6月見通し

福井県商工会連合会



## I. 景況調査の概要

1. 調査目的 この調査は、経営指導員による訪問面接調査により福井県商工会地域中小企業の経済動向について一定時期ごとに迅速・的確に収集、提供して、経営改善普及事業を効果的に実施するものです。
2. 調査方法 経営指導員による訪問面接調査
3. 対象地区 あわら市、坂井市、永平寺町、福井東、福井北、福井西、越前町、越前市（池田町）、南越前町、わかさ東、おおい町（高浜町）の計13商工会
4. 対象企業数 165企業（1地域15企業）
5. 回答企業数 165企業（回答率100%）
6. 調査対象期間 令和8年1～3月期実績および令和8年4～6月期見通し
7. 調査時点 令和8年3月1日（日）
8. 回答企業内訳

	調査対象企業数		有効回答企業数		有効回答率 (%)
製造業	37	22.4%	37	22.4%	100.0%
建設業	25	15.2%	25	15.2%	100.0%
小売業	49	29.7%	49	29.7%	100.0%
サービス業	54	32.7%	54	32.7%	100.0%
合計	165	100.0%	165	100.0%	100.0%

### 9. DI値（ディフュージョン・インデックス、景気動向指数）

企業の景気動向を示す指標です。各調査項目について〈増加・上昇・好転〉の割合からDI値がプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）となります。

$$DI（数式） = （上昇企業数 - 低下企業数） \div 回答企業数 \times 100$$

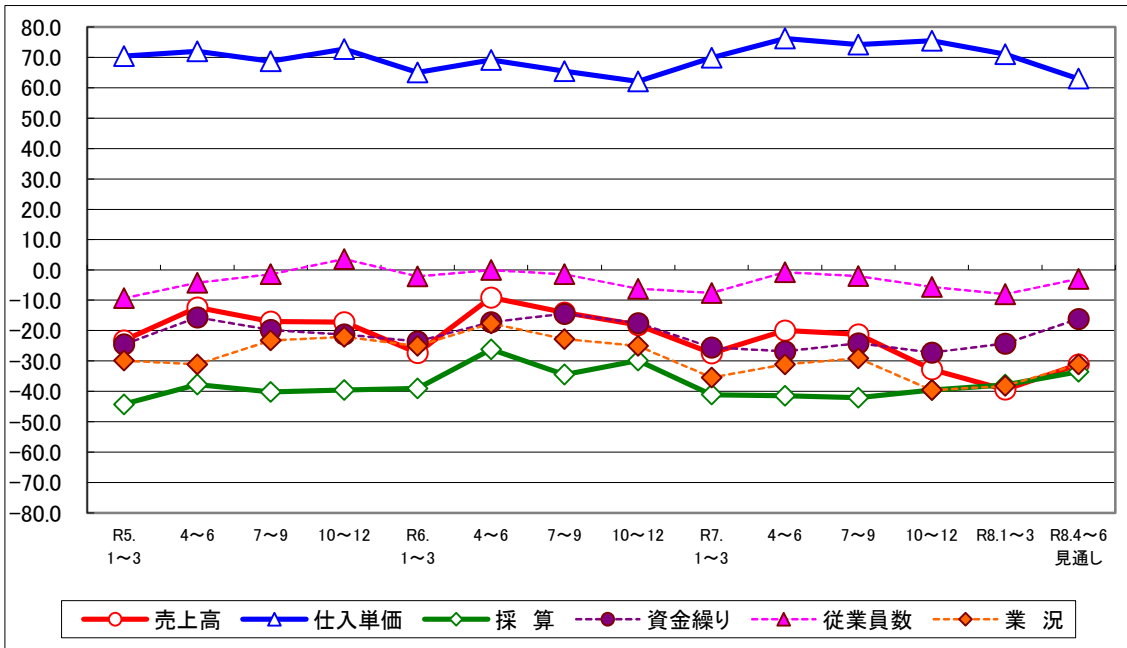
10. 分析執筆者 仁愛大学ビジネスコミュニケーション学部 特任教授、  
福井県立大学 名誉教授 南保 勝 氏

## 全体(福井県商工会地域中小企業)の景況

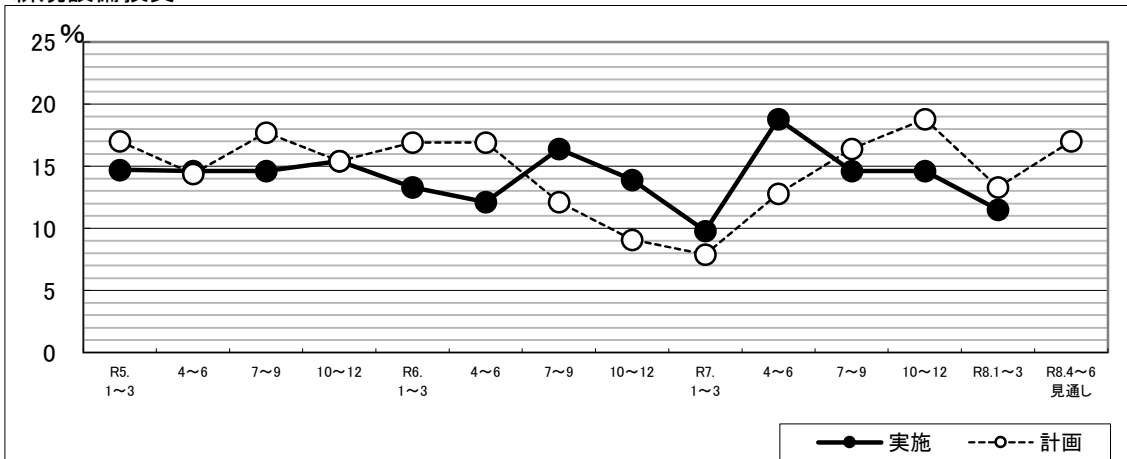
### 景気動向推移(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
R5.1~3	▲ 23.2	70.4	▲ 44.2	▲ 24.5	▲ 9.3	▲ 29.9
4~6	▲ 12.3	72.0	▲ 37.7	▲ 15.6	▲ 4.2	▲ 31.1
7~9	▲ 17.0	68.7	▲ 40.2	▲ 19.8	▲ 1.4	▲ 23.2
10~12	▲ 17.2	72.7	▲ 39.6	▲ 21.3	3.6	▲ 22.0
R6.1~3	▲ 27.3	65.0	▲ 39.0	▲ 23.5	▲ 2.1	▲ 25.0
4~6	▲ 9.1	69.1	▲ 26.1	▲ 17.2	0.0	▲ 17.6
7~9	▲ 14.0	65.4	▲ 34.4	▲ 14.4	▲ 1.4	▲ 22.7
10~12	▲ 18.2	62.1	▲ 29.9	▲ 17.5	▲ 6.2	▲ 25.0
R7.1~3	▲ 27.4	69.9	▲ 41.1	▲ 25.5	▲ 7.6	▲ 35.4
4~6	▲ 20.0	76.2	▲ 41.5	▲ 26.8	▲ 0.7	▲ 31.1
7~9	▲ 21.2	74.2	▲ 42.1	▲ 24.1	▲ 2.0	▲ 29.1
10~12	▲ 32.7	75.5	▲ 39.6	▲ 27.2	▲ 5.6	▲ 39.6
R8.1~3	▲ 39.4	71.0	▲ 37.8	▲ 24.2	▲ 8.0	▲ 38.2
R8.4~6見通し	▲ 31.1	63.0	▲ 33.5	▲ 16.1	▲ 2.9	▲ 31.1

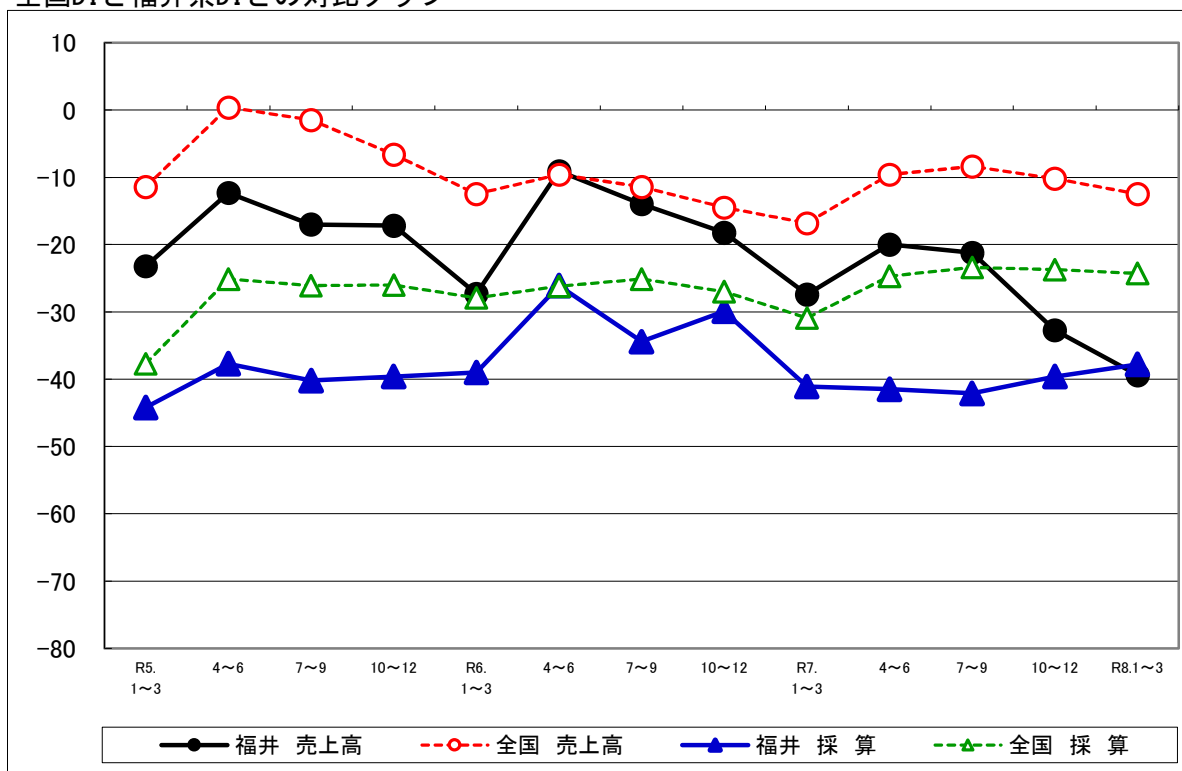
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



### 新規設備投資



全国DIと福井県DIとの対比グラフ



全体の景況

最近の我が国経済を概観すると、企業部門では、中東情勢の緊迫化による原油価格の高騰で、原料、仕入・部品の品薄感やコストアップが深刻化しているほか、生産現場での稼働率も低下が恒常化するなど、経営環境が徐々に悪化している。家計部門でも、ガソリン、食料品を中心とした物価上昇の中で消費マインドの減速感が強まっており、景気の先行きは一段と混迷の度合いを強めている。

一方、福井県については、これまでの長引く人手不足の問題や賃金アップの問題に加えて、今回のイラン戦争による影響が限定的とはいえ、エネルギー資源価格の高騰によるコスト上昇を自社製品へ転嫁することの難しさや原材料の根詰まり感などが徐々に深刻化しているほか、サービス関係では県内主要観光地への入込状況が伸び悩むなど、県内企業の業況は製造業、非製造業を問わず下降局面に入っている。

こうした中、今回（1～3月期）の景況調査をみると、景況感を表す6項目のうちDI値が前回調査（2025年10～12月期）に比べ悪化したものが2項目にとどまるなど、本県の場合、中東情勢の影響がまだ限定的であることを裏付けている。項目ごとのDI値をみると、売上高が前期▲32.7→今期▲39.4、仕入単価（逆指数）が前期75.5→今期71.0、採算が前期▲39.6→今期▲37.8、資金繰りが▲27.2→今期▲24.2、従業員数が前期▲5.6→今期▲8.0、業況が前期▲39.6→今期▲38.2となっている。また、先行き（R8年4～6月期）については、DI値6項目全てが改善予測となっており、今後、中東情勢が悪化する可能性があるものの、先行きに期待を寄せる県内企業が比較的多く、こうした事実から、地域企業の経営に対する前向きな思いを再確認することができた。

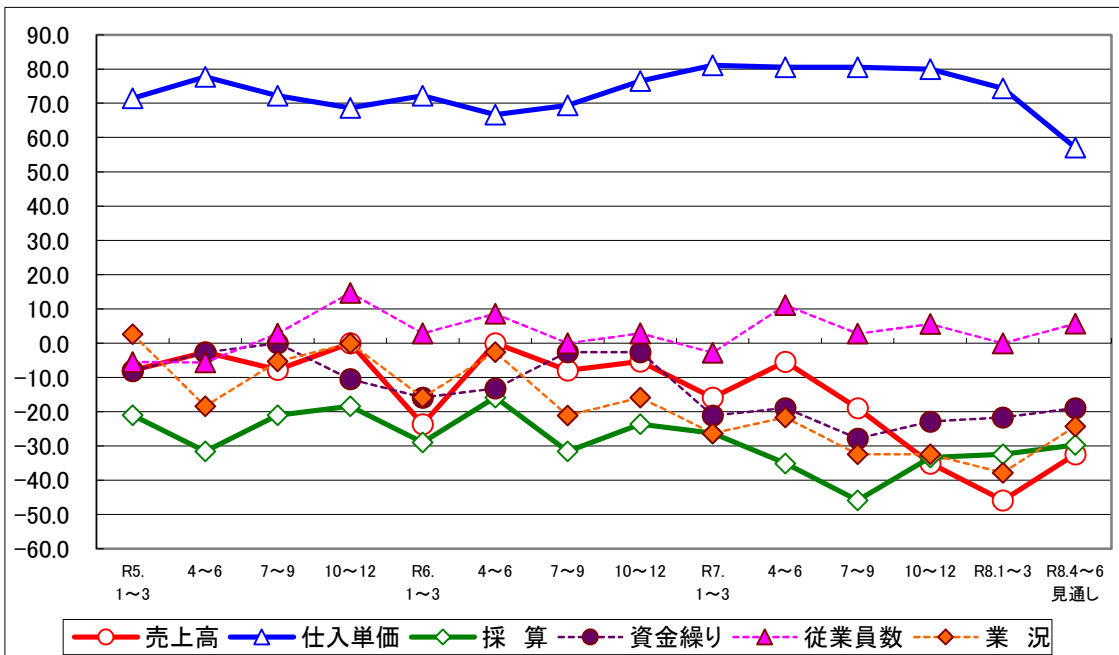
一方、売上高と採算のDI値を全国と比較すると、全国は売上、採算ともに悪化しているが、福井県は低水準ながら採算が改善傾向を示すなど、全国との動きに差異がみられた。そのほか、今期の新規設備投資については、計画の13.3%に対し実施が11.5%と、実施が計画を下回ったものの、来期については何らかの投資を考える企業割合が17.0%となっており、今期以上の投資マインドが期待できそうである。

## 製造業(福井県商工会地域中小企業)の景況

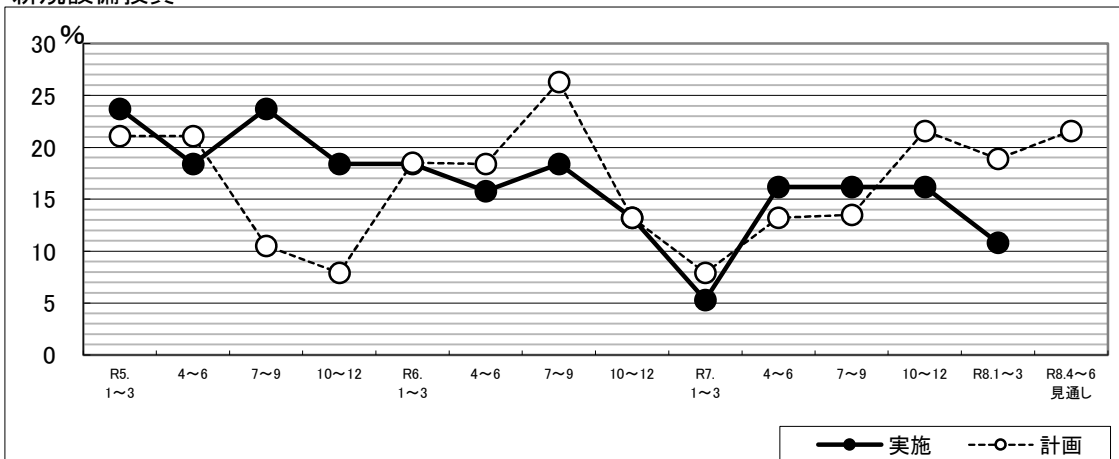
### 景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
R5.1~3	▲ 7.9	71.4	▲ 21.0	▲ 8.1	▲ 5.5	2.6
4~6	▲ 2.6	77.8	▲ 31.6	▲ 2.7	▲ 5.6	▲ 18.4
7~9	▲ 7.8	72.2	▲ 21.0	0.0	2.8	▲ 5.3
10~12	0.0	68.6	▲ 18.4	▲ 10.5	14.7	0.0
R6.1~3	▲ 23.7	72.2	▲ 28.9	▲ 15.8	2.9	▲ 15.8
4~6	0.0	66.7	▲ 15.8	▲ 13.2	8.6	▲ 2.6
7~9	▲ 7.9	69.4	▲ 31.6	▲ 2.6	0.0	▲ 21.1
10~12	▲ 5.3	76.5	▲ 23.7	▲ 2.6	2.9	▲ 15.8
R7.1~3	▲ 15.8	81.1	▲ 26.3	▲ 21.1	▲ 2.8	▲ 26.3
4~6	▲ 5.4	80.6	▲ 35.1	▲ 18.9	11.1	▲ 21.6
7~9	▲ 18.9	80.6	▲ 45.9	▲ 27.8	2.8	▲ 32.4
10~12	▲ 35.1	80.0	▲ 33.3	▲ 22.9	5.6	▲ 32.4
R8.1~3	▲ 45.9	74.3	▲ 32.4	▲ 21.6	0.0	▲ 37.8
R8.4~6見通し	▲ 32.4	57.1	▲ 29.7	▲ 18.9	5.7	▲ 24.3

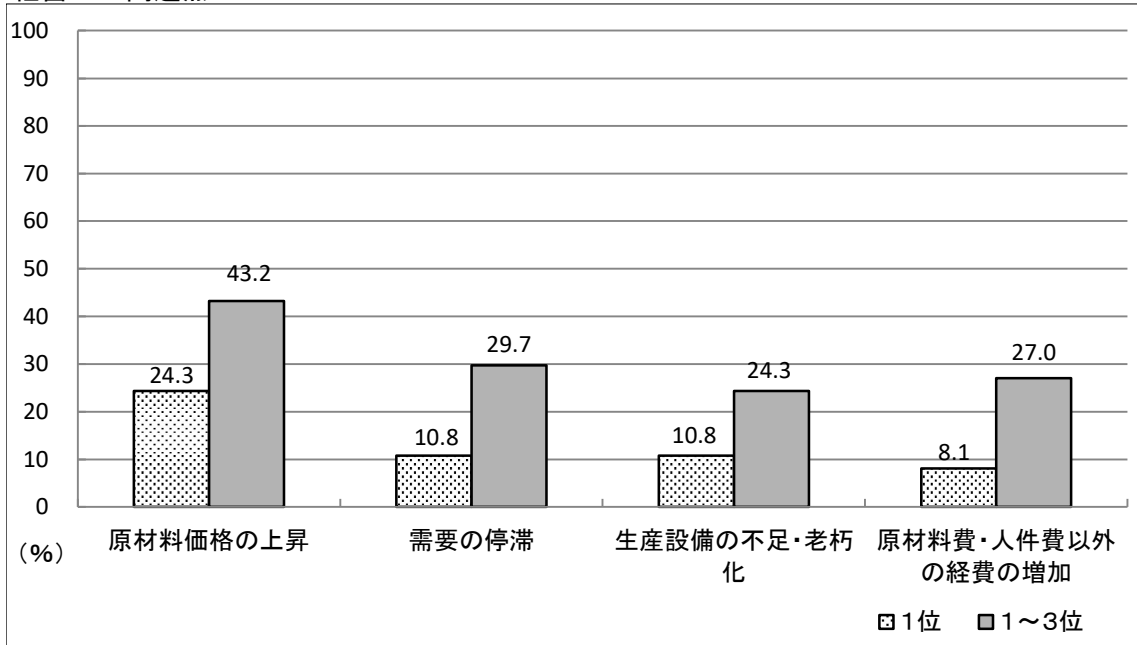
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



### 新規設備投資



## 経営上の問題点



## 調査企業の声

- ・物価の上昇が激しい。安いものしか売れない。上代が上がらないため加工賃も上がらず、安い海外製品が少し売れるくらいで業種的に厳しい。
- ・食の環境が変わってきているように感じる。簡便性のある冷凍食品やレトルト食品であつたり常に消費者目線で考え、買いたい、食べたいと思ってもらえる商品作りが必要とされていると感じる。
- ・原材料・経費の上昇により利益が圧迫されているが、価格には反映しづらい状況にある。

## 製造業の景況

最近の県内製造業の業況を概観すると、全体としてはエネルギー資源価格の高騰や仕入れコストの上昇、人手不足、中東情勢の緊迫化など、経営環境の下押し要素が強まっている。ちなみに、主力の電子部品・デバイスはスマートフォン向けを中心に回復しつつあるが、繊維産業では引き続き非衣料向けが堅調ながら、衣料向けは弱含んでおり、全体では足踏みの状況が続いている。化学産業も海外向け汎用品需要が低調であることなどから、足踏みの状況が続いている。そのほか、眼鏡枠産業なども回復のテンポが弱まっている。

こうした中、今期（R8年1～3月期）の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目のうち、売上高、従業員数、業況などで悪化が進んだものの、その他の項目では持ち直しのうごきがみられるなど、一進一退の状況にある。ちなみに、項目別のDI値をみると、売上高が前期▲35.1→今期▲45.9、仕入単価（逆指数）が前期80.0→今期74.3、採算が前期▲33.3→今期▲32.4、資金繰りが前期▲22.9→今期▲21.6、従業員数が5.6→0.0、業況が前期▲32.4→今期▲37.8となっている。また、先行き（R8年4～6月期）については、DI値6項目全てが改善予測となっており、厳しい経営環境ではあるが、県内製造業では先行きに期待感を持つ企業が比較的多いことがわかる。

一方、新規設備投資の状況については、何らかの設備投資計画を保有する企業18.9%に対し、実施した企業ウエイトが10.8%と、計画の割に実施企業のウエイトは小さい。ただ、先行き（4～6月期）については、何らかの投資を予定する企業が21.6%を占め、今期以上の投資マインドが期待できる。

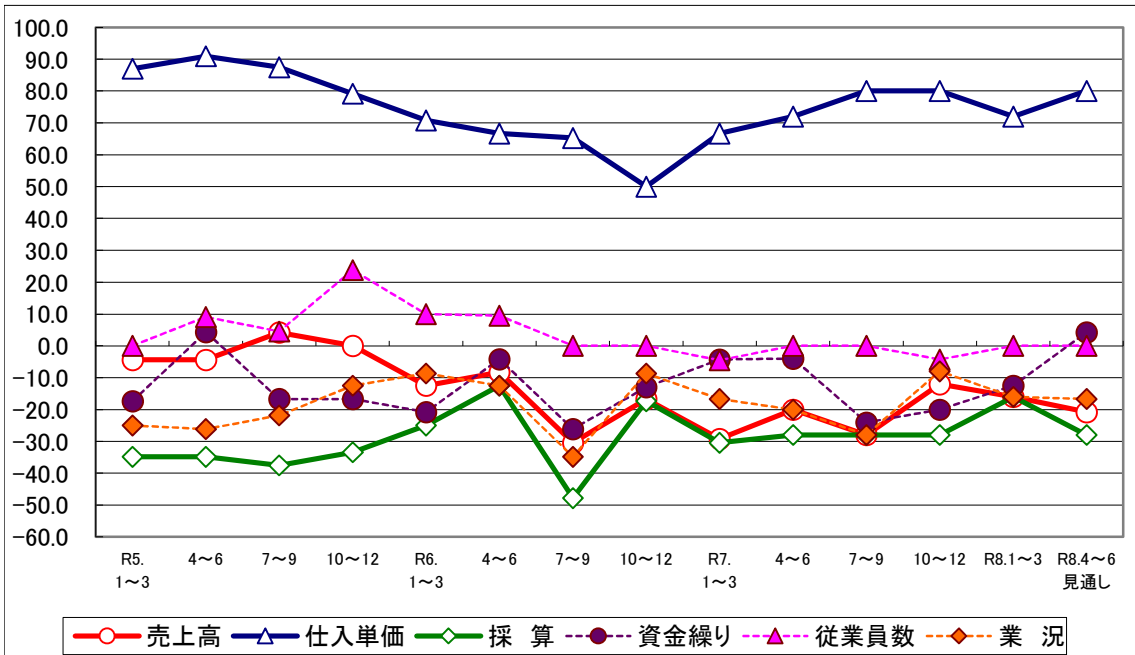
最後に、経営上の問題点については、「原材料価格の上昇」への指摘が最も多く、24.3%（1位～3位に挙げた企業43.2%）を占めた。その他、「物価の上昇が激しい。安いものしか売れない。」「原材料・経費の上昇で利益が圧迫されているが、価格には反映しづらい状況にある。」など、厳しい見解が比較的多かった。

## 建設業(福井県商工会地域中小企業)の景況

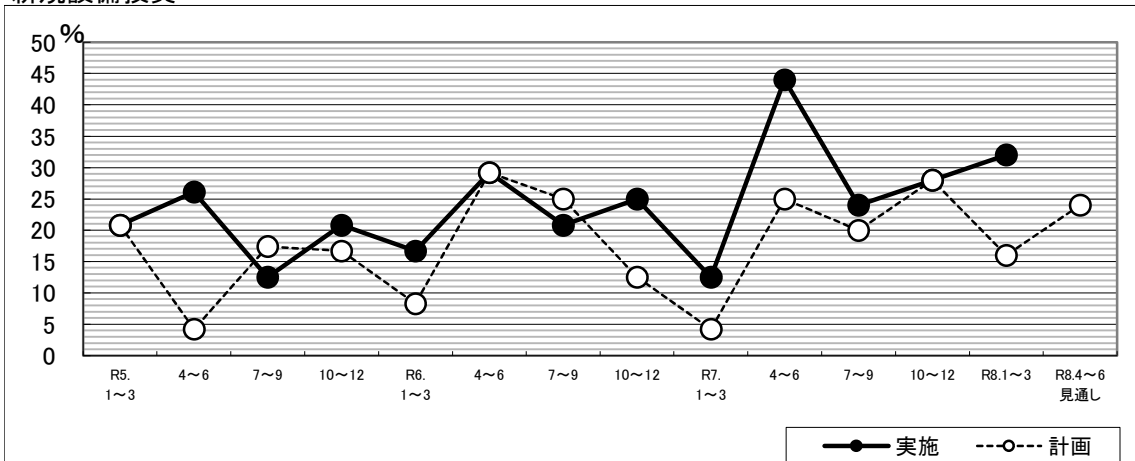
### 景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
R5.1~3	▲ 4.4	87.0	▲ 34.8	▲ 17.4	0.0	▲ 25.0
4~6	▲ 4.4	90.9	▲ 34.8	4.3	9.1	▲ 26.1
7~9	4.2	87.5	▲ 37.5	▲ 16.7	4.5	▲ 21.8
10~12	0.0	79.2	▲ 33.4	▲ 16.7	23.8	▲ 12.5
R6.1~3	▲ 12.5	70.8	▲ 25.0	▲ 20.8	10.0	▲ 8.7
4~6	▲ 8.3	66.7	▲ 12.5	▲ 4.2	9.5	▲ 12.5
7~9	▲ 30.4	65.2	▲ 47.8	▲ 26.1	0.0	▲ 34.8
10~12	▲ 16.7	50.0	▲ 17.4	▲ 13.0	0.0	▲ 8.7
R7.1~3	▲ 29.2	66.7	▲ 30.4	▲ 4.3	▲ 4.5	▲ 16.7
4~6	▲ 20.0	72.0	▲ 28.0	▲ 4.0	0.0	▲ 20.0
7~9	▲ 28.0	80.0	▲ 28.0	▲ 24.0	0.0	▲ 28.0
10~12	▲ 12.0	80.0	▲ 28.0	▲ 20.0	▲ 4.3	▲ 8.0
R8.1~3	▲ 16.0	72.0	▲ 16.0	▲ 12.5	0.0	▲ 16.0
R8.4~6見通し	▲ 20.8	80.0	▲ 28.0	4.2	0.0	▲ 16.7

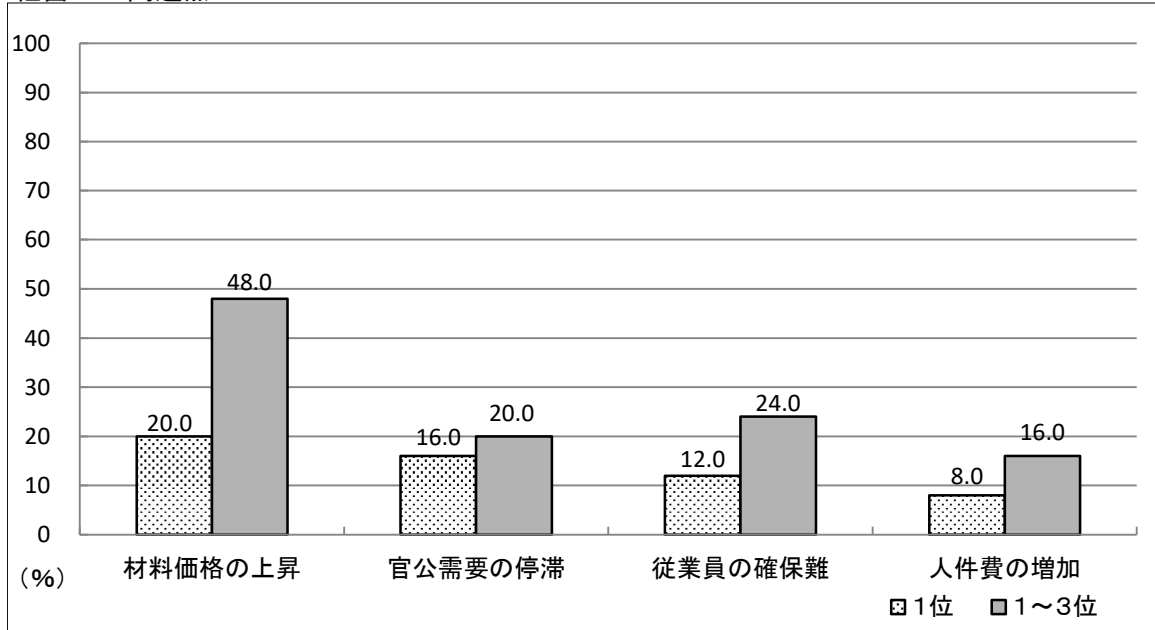
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



### 新規設備投資



## 経営上の問題点



## 調査企業の声

- ・建設費、建設資材の高騰により、住宅着工件数が減少している。
- ・年々入札物件が少なくなっており、自社が入札できない物件が多くなってきた。県や市には入札格付けを設ける以上、均等に物件設定をして欲しい。
- ・円安による銅・鉄相場の上昇で資材単価の上昇に積算が追いつかず、十分に転嫁できていない。人材不足はさらに深刻で、受注に人手が追いつかず失注が増えている。
- ・良さそうな仕事があっても、技術者・人材不足で受注出来ない場合がある。常時、従業員の募集はしているが、入社希望者がいない。

## 建設業の景況

福井県内におけるR7年4～R8年3月の建設需要をみると、公共工事発注状況（資料：東日本建設業保証株式会社）は、請負金額が累計1,331億46百万円の前年同期比2.3%の減少、発注件数では同3,148件の同5.4%減となっている。主な発注者別でみると、市町村関連工事が542億65百万円の前年同期比28.2%増となったものの、県関連工事は417億91百万円の前年同期比15.2%減であった。そのほか国関連工事は218億00百万円で、同19.9%の減少となっている。一方、住宅投資については、R7年4～R8年2月の累計で、前年同期比16.6%減の2,594戸であった。利用関係別では、主力の持家が前年同期比12.8%減の1,520戸、貸家が同19.8%減の729戸となっている。住宅業界では、引き続き木材価格の高騰や人手不足、さらに資材不足などから厳しい経営環境を強いられている。

こうした中、今回の景況調査では、景況感を示すDI値6項目のうち4項目で改善、2項目で悪化となった。各項目別のDI値については、売上高が前期▲12.0→今期▲16.0、仕入単価（逆指数）が前期80.0→今期72.0、採算が前期▲28.0→今期▲16.0、資金繰りが前期▲20.0→今期▲12.5、従業員数が前期▲4.3→今期0.0、業況が前期▲8.0→今期▲16.0となっている。また、先行き（R8年4～6月期）については、悪化予想が4項目となり、経営環境の悪化が予見される。

一方、今期の新規設備投資については、設備投資を実施した企業が32.0%と、計画した企業の16.0%を大きく上回ったほか、先行き（R8年4～6月期）についても、計画企業が24.0%を占めるなど、引き続き高い投資意欲が期待される。

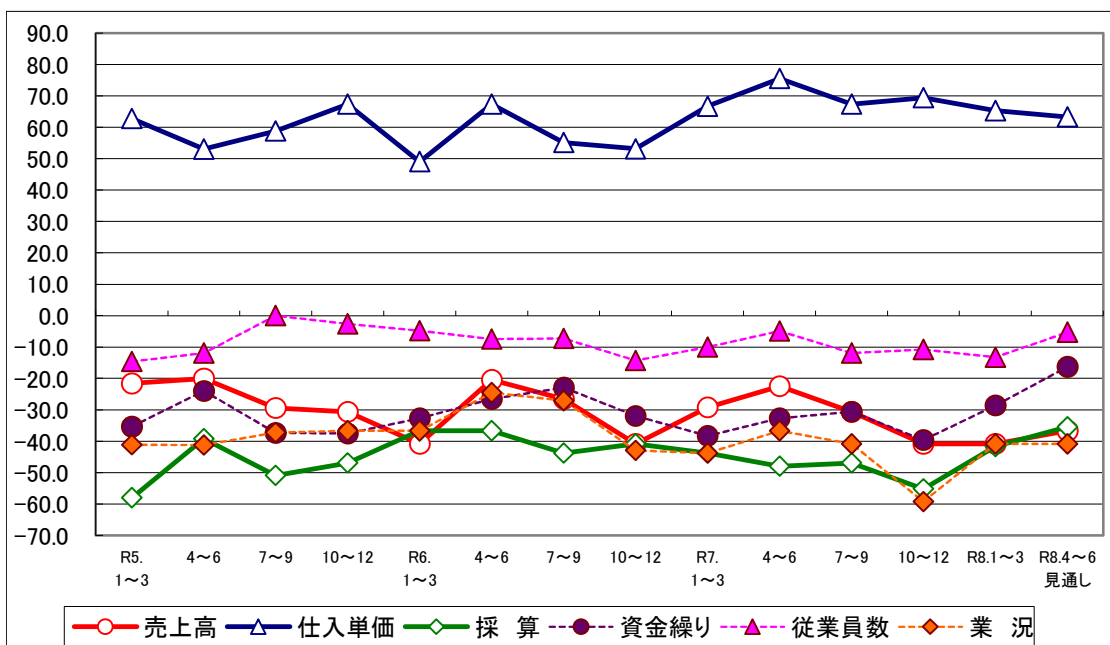
最後に、経営上の問題点については、「材料価格の上昇」が最も多く20.0%（1位～3位に挙げた企業48.0%）を占めた。個別の見解としては、需要の減少、コスト高、人手不足、材料不足など、業界の多様な課題を指摘する声が目立っている。

## 小売業(福井県商工会地域中小企業)の景況

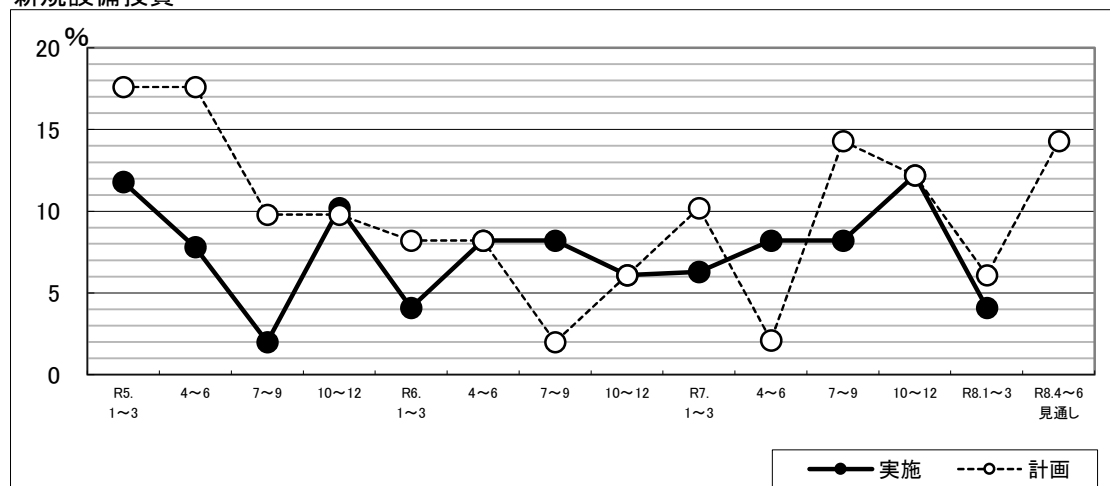
### 景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
R5.1~3	▲ 21.6	62.8	▲ 58.0	▲ 35.3	▲ 14.6	▲ 41.1
4~6	▲ 20.0	53.0	▲ 39.2	▲ 24.0	▲ 11.9	▲ 41.2
7~9	▲ 29.4	58.8	▲ 50.9	▲ 37.3	0.0	▲ 37.2
10~12	▲ 30.6	67.3	▲ 46.9	▲ 37.5	▲ 2.6	▲ 36.7
R6.1~3	▲ 40.8	49.0	▲ 36.7	▲ 32.7	▲ 4.8	▲ 36.7
4~6	▲ 20.4	67.3	▲ 36.7	▲ 26.5	▲ 7.5	▲ 24.5
7~9	▲ 26.5	55.1	▲ 43.8	▲ 22.9	▲ 7.3	▲ 27.1
10~12	▲ 40.8	53.1	▲ 40.8	▲ 31.9	▲ 14.3	▲ 42.9
R7.1~3	▲ 29.2	66.7	▲ 43.8	▲ 38.3	▲ 10.0	▲ 43.8
4~6	▲ 22.4	75.5	▲ 47.9	▲ 32.7	▲ 4.9	▲ 36.7
7~9	▲ 30.6	67.3	▲ 46.9	▲ 30.6	▲ 11.9	▲ 40.8
10~12	▲ 40.8	69.4	▲ 55.1	▲ 39.6	▲ 10.8	▲ 59.2
R8.1~3	▲ 40.8	65.3	▲ 41.7	▲ 28.6	▲ 13.2	▲ 40.8
R8.4~6見通し	▲ 36.7	63.3	▲ 35.4	▲ 16.3	▲ 5.3	▲ 40.8

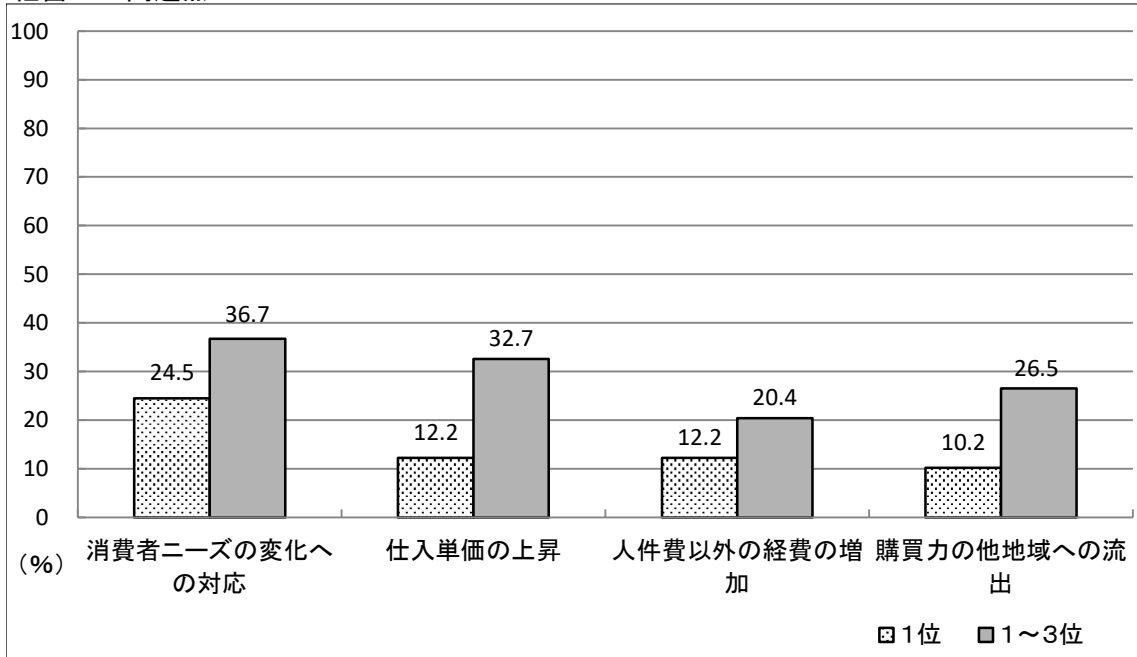
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



### 新規設備投資



## 経営上の問題点



## 調査企業の声

- ・ 業況はよくなってきている。しかし、同時に仕入先からの値上げ要請や人件費の増加が生じている。現状の業況が続けばよいが、さらなるコストの増加は厳しい。
- ・ 同業者（寝具店）も減少し、綿のふとんの需要も減り、今後のことを考えると不安。しかし、綿を取り扱っている寝具店もほぼなくなったが、少数の消費者のためにも頑張りたい。
- ・ 最低賃金の値上げは、ボディブローのようにじわじわと経営を圧迫しており、非常に厳しい状況にある。
- ・ 仕入れ値が全体的に高く、問屋も在庫をもたなくなっているため仕入れが難しくなっている。

## 小売業の景況

最近の小売商況を外観すると、百貨店・スーパーでは、値上げも手伝って飲食料品の堅調な伸びに支えられ、全体では緩やかに回復しつつある。コンビニエンスストアやドラッグストアなどでも、飲料や米飯類等の飲食料品需要、さらには旺盛な出店需要もあって順調に推移しており、ホームセンター、家電量販店など一部の専門店を除いて堅調に推移している。ちなみに、近畿経済産業局が公表するR8年2月の県内大型店売上高（百貨店＋スーパー、全店ベース）（速報値）は、「衣料品」、「身の回り品」等が不振ながら、「飲食料品」、「家具・家電・家事用品」等が堅調な売上を維持したことなどから、前年同月比3.9%上昇し、76億32百万円となった。

こうした中、今回の景況調査では、景況感を示すDI値6項目中4項目で改善傾向となるなど、比較的堅調な推移をみせている。この要因は、飲食料品の大幅な値上げなど生活関連物資の物価上昇が全体の売上を押し上げるといった効果が影響しているものと思われる。ちなみに、項目別の状況をみると、売上高が前期▲40.8→今期▲40.8、仕入単価（逆指数）が前期69.4→今期65.3、採算が前期▲55.1→今期▲41.7、資金繰りが前期▲39.6→今期▲28.6、従業員数が前期▲10.8→今期▲13.2、業況が前期▲59.2→今期▲40.8になっている。先行き（R8年4-6月期）については、6項目中改善予測となったものは4項目、仕入単価、業況の2項目についても横ばいとなっている。

一方、今期の新規設備投資については、設備投資を実施した企業が4.1%にとどまり、前期（R7年10-12月期：12.2%）の水準を下回っている。ただ、先行き（R8年4-6月期）については、何らかの投資を予定する企業が14.3%みられ、幾分持ち直すことが予想される。

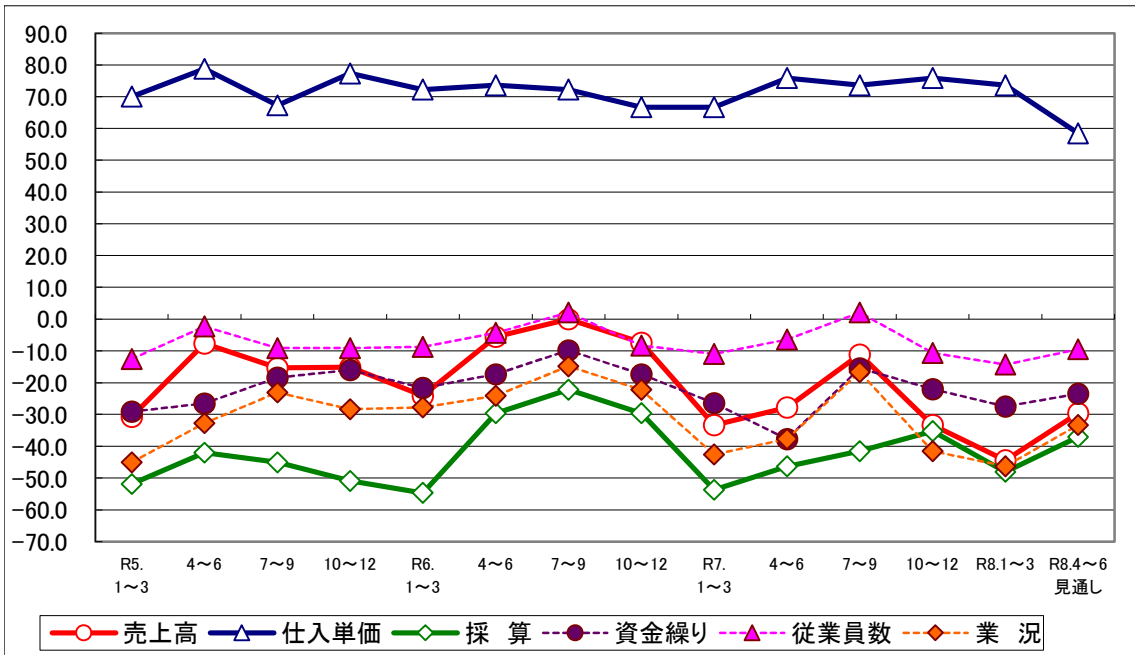
最後に、経営上の問題点については、「消費者ニーズの変化への対応」が最も多く、1位に挙げた企業ウエイト24.5%、1位～3位までに挙げた企業36.7%となった。また、「需要の減少」、「仕入価格の上昇」など、小売業界が抱える基本的な課題を指摘する声も目立っている。

## サービス業(福井県商工会地域中小企業)の景況

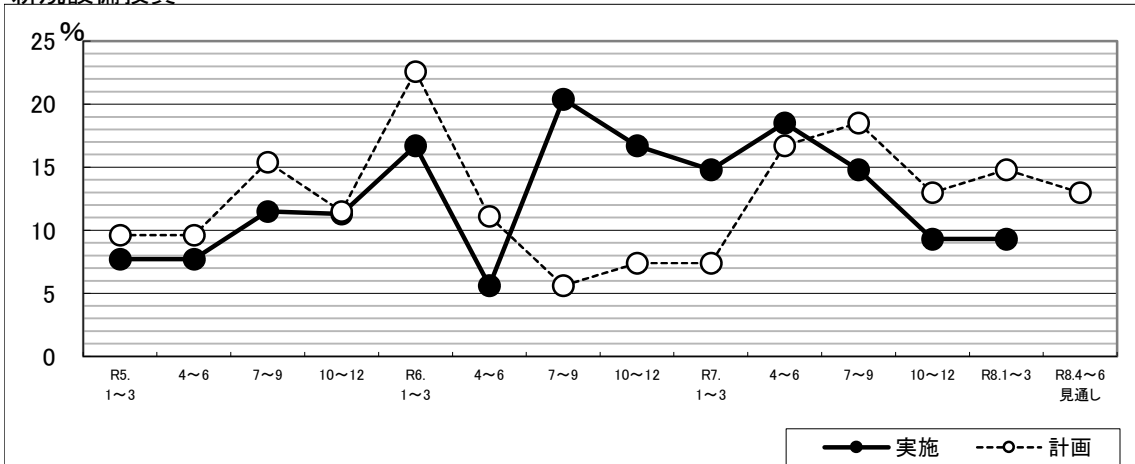
### 景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
R5.1~3	▲ 30.7	70.0	▲ 51.9	▲ 29.1	▲ 12.5	▲ 45.1
4~6	▲ 7.7	78.8	▲ 42.0	▲ 26.5	▲ 2.3	▲ 32.7
7~9	▲ 15.3	67.3	▲ 45.1	▲ 18.4	▲ 9.1	▲ 23.1
10~12	▲ 15.1	77.3	▲ 50.9	▲ 16.0	▲ 9.1	▲ 28.3
R6.1~3	▲ 24.1	72.2	▲ 54.7	▲ 21.6	▲ 8.7	▲ 27.8
4~6	▲ 5.6	73.6	▲ 29.6	▲ 17.3	▲ 4.3	▲ 24.1
7~9	0.0	72.2	▲ 22.2	▲ 9.8	2.1	▲ 14.8
10~12	▲ 7.4	66.7	▲ 29.6	▲ 17.3	▲ 8.3	▲ 22.2
R7.1~3	▲ 33.3	66.7	▲ 53.7	▲ 26.4	▲ 10.9	▲ 42.6
4~6	▲ 27.8	75.9	▲ 46.3	▲ 37.7	▲ 6.4	▲ 37.7
7~9	▲ 11.1	73.6	▲ 41.5	▲ 15.4	2.1	▲ 16.7
10~12	▲ 33.3	75.9	▲ 35.2	▲ 22.0	▲ 10.6	▲ 41.5
R8.1~3	▲ 44.4	73.6	▲ 48.1	▲ 27.5	▲ 14.3	▲ 46.3
R8.4~6見通し	▲ 29.6	58.5	▲ 37.0	▲ 23.5	▲ 9.5	▲ 33.3

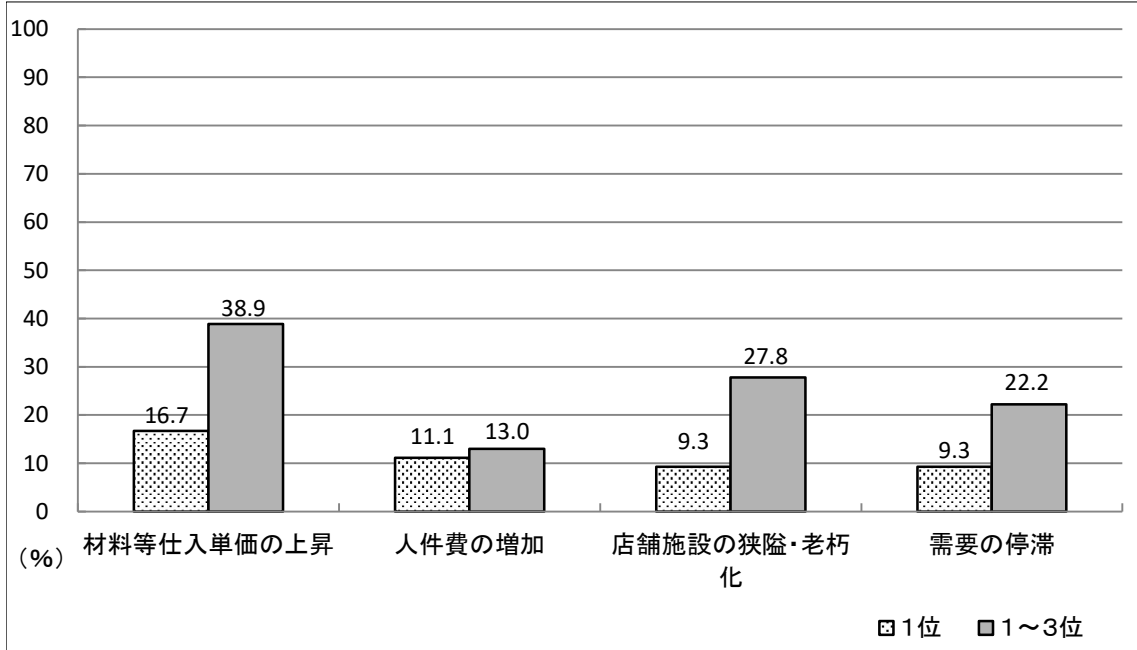
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



### 新規設備投資



## 経営上の問題点



## 調査企業の声

- ・ 客単価を上げ、売上を増やすのが望ましいと思うが、客数を増やし売上を上げていくを考えている。
- ・ 今期は販売において売上が上がったが、来期は販売においての見通しがたたない。全体的に中間層の感じが良くないと思う。
- ・ 新幹線開業効果が薄れてきて観光客が減少している。

## サービス業の景況

経済産業省が毎月公表する第3次産業活動指数（季節調整値）をみると、2026年1月の第3次産業活動指数（サービス産業活動）は、「生活娯楽関連サービス」、「不動産」が低下した一方、「情報通信業」、「小売業」などの業種が上昇したことから、全体として前月比1.7%と、3か月ぶりの上昇となった。また、第3次産業全体としては持ち直しの動きがみられる一方で、小売業など一部で足下の動きに足踏みがみられるなど、業種間でのバラツキも続いている。こうした状況も踏まえ、経済産業省では第3次産業活動指数の1月の基調判断について、「一部に足踏みがみられるものの、持ち直しの動き」として据え置いた。なお、今後の着目点としては、物価上昇による取引量への影響などについても注視することが必要と述べられている。

こうした中、今回の景況調査をみると、DI値6項目中5項目で悪化となり、業界全体としては、引き続き予断を許さない状況にあることがうかがえる。項目別の指数は、売上高が前期▲33.3→今期▲44.4、仕入単価（逆指数）が前期75.9→今期73.6、採算が前期▲35.2→今期▲48.1、資金繰りが前期▲22.0→今期▲27.5、従業員数が前期▲10.6→今期▲14.3、業況が前期▲41.5→今期▲46.3となっている。また、先行き（R8年4-6月期）については、6項目全てが改善予測となっており、引き続き厳しい経営環境が続くものの、幾分の改善が期待できる。

一方、今期の新規設備投資については、何らかの設備投資計画を保有する企業14.8%に対し、実施した企業ウエイトが9.3%と、実施が計画を下回っている。また、先行き（R8年4-6月期）については、何らかの投資を予定する企業が13.0%となり、やや増加することが予想される。

最後に、経営上の問題点については、「材料等仕入れ単価の上昇」（1位に挙げた企業16.7%、1位～3位までに挙げた企業38.9%）への指摘が最も多い。個別の見解としては、「来期は販売の見通しがたたない。」、「従業員の労働時間の減少、給料のベースアップにより生産性が落ち利益が圧縮している。」など、悲観的見方が多い。